

# エビイモ栽培の機械化で土入れ作業時間を大幅に削減

エビイモの管理作業を機械化することにより、収量は従来の水準を維持しつつ、土入れ作業の時間を90%削減できました。

背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場で高い評価を受けるエビイモは、府内各産地で栽培面積の拡大意向</li> <li>重労働で手間がかかる土入れ作業が、面積拡大を阻む要因</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>株元に土を高く寄せる土入れ作業を機械化し、省力栽培体系を構築することが必要</li> </ul>

従来

機械化



手作業



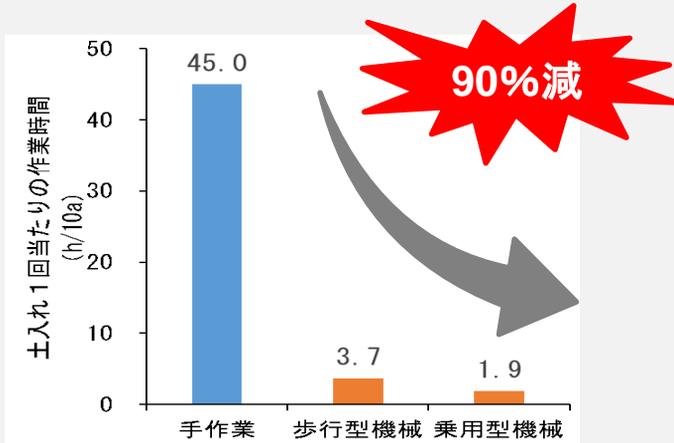
歩行型機械



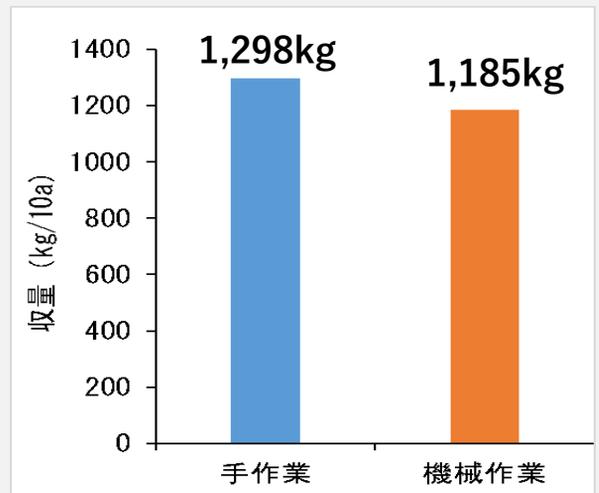
乗用型機械

※土をより高く飛ばす機械を選定

## ①土入れの作業時間が大幅減



## ②収量は同等



手作業の場合、栽培面積は5a/戸程度が限界



機械化で最大**50a/戸**まで拡大可能

機械による土入れでも手作業と同等の収量を維持

### 研究成果

土入れ作業の機械化により、土入れ作業にかかる時間が手作業と比較して90%短縮され、大幅な栽培面積の拡大が可能になりました。

### 今後の展開

機械利用による栽培体系の普及により、一戸あたりの規模を拡大し、府内の栽培面積20%増を目指します。